

さとやま通信

活動ダイジェスト 令和5年1月~3月

発行 NPO法人ひらた里山の会
 発行人 代表理事 佐藤忠智
 住所 山形県酒田市檜橋字大林4-2
 電話 0234-25-0920

悠々の杜に庄内平野を一望スポット 阻害木伐採で拡大!



悠々の杜みはらし台がさらに見晴らし良く再生しました。杉の阻害木をボランティアが薪づくりでSDGsに貢献しようと玉切で汗を流しました。

里山資源活用地域フォーラム盛大に140人

当会の里山保全活動と地域循環などに地域住民から関心を持ってもらうため、3月4日(土)ひらたタウンセンターで「里山資源を活用した地域づくりフォーラム」を開催、140人が参加した。山形大学農学部 食料生命環境学科アグリサイエンスコースの学生たちと渡辺理絵准教授、二本松営農ソーラー(株)代表取締役の近藤恵氏と東北芸術工科大学の三浦秀一教授が「里山、資源、地域循環」をテーマにそれぞれの切り口で発表した。パネルディスカッションには(株)農園貞太郎代表取締役の遠藤久道氏と名古屋大学の平さん、当会の佐藤幸一副代表が加わり、地元農業の取り組みと海外を比較、地域に何があるのかを知ること、他業種との協力と小さなことから実行する重要性などを話しあわれた。



▲パネルディスカッション風景

放デイもちでゲンキに!

3月22日(水)、放デイならはしの子どもたちが餅づくりと地元食文化の大切さを感じてもらうため、佐藤鐵喜、佐藤幸一両副代表らが企画し実施しました。

蒸し器を初めて見る子どもたちは、蒸し器から取り出した餅に興奮、それぞれ自分が食べやすい大きさにちぎって、きな粉や餡子、ジャムをつけたり、肉汁に入れたりしてお腹一杯食べ楽しい時間を過ごしました。



▲餅の感触を楽しみながら丸めた

雪原の山谷堤スノーシューハイク

江戸時代からの灌漑設備で祠がある隠れた神秘スポット「山谷堤」体験を目的に2月4日(土)「雪原の山谷堤スノーシューハイク」を開催した。晴天の下、27人が参加し、雪を踏みしめて4kmの道のりを歩いた。途中キツネや猪の痕跡をスタッフが説明。雪に覆われた広大なため池の「山谷堤」に初めて来た方は驚きと周辺にある桜が春には満開の花で彩られるのを期待していた。

歩き終えた一行は、アイアイひらたでお弁当と温泉で一時的な休息と、同日開催のマルシェイベントを見物しました。



▲山谷堤を背景に記念撮影